

実施クラス	実施日	実施保育者名
5歳児 めろん 組	6月 11日 (水)	三森

● 実施計画

活動テーマ

サイエンス ~光~
光と影の探検ごっこ

活動テーマに関する 日頃の興味関心について

- ・前週の影あそびが広がり、園内外でできる影を発見していた
- ・前年度の年長児が使っていた劇遊びの鏡を使って光を反射させて楽しむ姿があった

活動スケジュール

環境設定 ・ 準備物

時間	内容	環境設定 ・ 準備物
10:00~10:10	<p>・「影あそびはどんな遊びだったかな?」「影はどんな形をしていたかな?」「太陽が雲に隠れた時には影はどうなったかな?」という保育者の言葉掛けで、前回の活動を振り返る。</p> <p>・実際に行った経験から、「影ができるためには何が必要なのかな?」「影ができるのは外だけかな?」と質問する。</p> <p>・光について子どもが気がついた時に、太陽とライトから光が直進する図解を示し、光と影の関係性について「どんな時に光や影があるかな?」「光が出るもの、影ができるものって何かな?」と質問する。</p> <p>・「電気を消したら光は無くなるのかな?」と声を掛け、保育室を暗くしたら影はどうなるか調べてみようとして提案する。</p> <p>・「影は見えるかな?」と問いかけ、光がないと影はどうなるかを一緒に確認していく。</p>	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 懐中電灯について、明るさの確認と、子どもの手に持った際に危険な箇所がないか確認しておく。 ・ 暗い環境が苦手な子がいないか等を把握しておく。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 懐中電灯 ・ 影や反射ができる物品 ・ ホワイトボード、マーカー <p>■参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽とライトから光が直進する図解 ・ 光の反射の図解 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究活動に使用する用具（懐中電灯、鏡など）使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・ わかりやすいイラストや写真を選定する。
10:10~10:30	<p>・電気をつけ、「暗くなったら影はどうなったかな?」と気づいた事を話せる場を設け「どうして影が見えなくなったのかな?」と問いかける。</p> <p>・懐中電灯の使い方を伝える。懐中電灯を使って室内を探検する際は、4グループに分ける。「どうやったらみんなで使えるかな?」「違うグループも一緒に探検するから、どんな事に気をつけたらいいかな?」等グループで使うためにはどうしたらよいかを話し合っ規則を決める。</p> <p>・再び保育室を暗くして、懐中電灯を使って照らしながら探検を試みる。「さっき影が無くなった場所に光を当てるとどうなったかな?」「影はどうなっているのかな?」「光はどうなっているかな?」と問いかけ、光と影の様子を観察できるようにする。</p>	

10:30~10:40	<p>・「光はどう進んでいるかな?」「この光はどこから来たのかな」と問いかけ、反射に気がつけるような声掛けもしてみる。</p> <p>・グループごとに、探検での発見や感想を発表する。内容に合わせて「どのように光や影が見えましたか?」「光や影の大きさはどうでしたか?」「光が跳ね返ったのはどんな物がありましたか?」と問いを投げかけてみる。</p> <p>・光の反射の図解を見せ、光が何かに当たって跳ね返ることを「反射」というと説明する。</p> <p>・「鏡の他にも反射したものはあるかな?」「どんな物が反射するのかな?」「ツルツルとザラザラだと変わるのかな?」等反射する物・しない物はどんなものがあるのかを予想をする。</p> <p>・次回、調べてみよう(実験してみよう)と提案し、探究の継続と次回への意欲がわくような声掛けをする。</p>	
-------------	--	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・前回の活動の広がりから、普段感じている光と影について、改めて探究的な視点で見るときっかけを作る。</p> <p>・光と影の性質に体験を通して気づき、試行錯誤する中で「不思議だな」「なぜそうなるのかな」という疑問をもつことで、探究することの面白さを感じられるようにする。</p> <p>・これから深めていく光と影の関係性や、反射や屈折などの光の性質についてを探検を通して気づいていく。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「影は光がないとできない」と話すこともがいた</p> <p>・戸外だけでなく、室内でも影ができることに気がつく子どもがいた</p> <p>・戸外では太陽があることで影ができるが、室内では部屋の電気が太陽の代わりとなって影ができることを話していた</p> <p>・懐中電灯は自分や相手の顔に向けてすることで、失明の恐れがあることを説明されると、自分や相手には光を向けないよう約束事を守る姿が見られた。</p> <p>・室内を暗くすることで気持ちが高まり、危険な場面があることを想定していたが、気持ちが高まりながらも制御しながら楽しむ姿が見られた。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・鏡に懐中電灯を向ける子どもがいなかったの、鏡に向けたらどうなるか考えてみよう鏡に意識が向くように促していった。</p> <p>・室内が暗くなり、いつもとは違った環境の中で、気持ちが高まる子どもの姿が見られたが、それぞれが危険なことがないように周囲をよく見る姿が見られた。普段からの危機回避能力を育むような働きかけが子どもたちに習慣付いているように感じた。</p>	<p>室内を暗くするという非日常的な環境設定は、子ども達の好奇心や探究心を刺激したことと思う。懐中電灯を鏡に向けるという遊びを通して、光の反射という科学的な現象に触れるだけでなく、暗闇といういつもと違う環境に適応しようとする中で、視覚以外の感覚が研ぎ澄まされ、聴覚や触覚などを使って周囲の状況を把握しようとする力も高まったのではないかと。特に「それぞれが危険なことがないように周囲をよく見る姿が見られた」という点は、大人が直接的に注意を促さなくても、子どもたち自身が安全に対する意識を持っている証拠であり、日頃の保育や教育の成果が表れていて素晴らしい。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	7 月 14 日 (月)	三森

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ~水~ 水ってなに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
水遊びが始まり、水について日常的に興味をもっている。水の感触を楽しみながら、水に関心を寄せている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00~10:10	・水とは何かを問いかける。 ・子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。	【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:10~10:30	・水を水槽やコップに入れて観察してみる。 ・水の色、匂い、形、触ったらどうかに注目して観察する。 ・さまざまな形の容器に水を入れて、探究してみる。	【活動使用教材】 ・水 ・透明のプラスチックコップ ・水槽 ・氷 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
10:30~10:40	・観察での発見や感想を発表する。 ・発表の内容をホワイトボードにまとめていく。 ・水の性質について確認する。	【事前準備】 ・水を扱う活動になるため、水で濡れる点に注意し、転倒などの事故を防ぐよう環境を設定しておく。 ・氷を作っておく。子どもたちと一緒に作っても良い。 ・探究活動で使用する用具の使用方法を設定しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、水はどのようなものか考え、「手を洗うときに使う」「雨」「つめたい」など、日常生活からくるもの、感覚や印象から水について考える発言していた。</p> <p>・水について、色、形、におい、触ったらどうかなど体験を通じて探究を深めた。</p> <p>・振り返りでは、気づきや調べた内容を共有し、発表した。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水って透明なんだ」 ・「水って匂いがしないんだね」 ・「冷たいね」「とろっとしてるね」 ・「コップに入れると形があるね」「流すと長四角の形だね」 ・「流すと下にいくね」「水って上には上がれるのかな？」「水は重いから上には上がれないよ」などと気付いたり、発見を友達に共有する姿が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが見つけたことに対して、「ほんとうだね！なんでそうなるんだろう？」と問いかけを重ねることで、さらに観察や考察が深まるように意識した。 ・一人ひとりの気づきをみんなで共有できるように、「Cくんはどう思った？」「Bちゃんはどうだった？」と対話をつなげた。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、普段当たり前に触れている水にも強い関心を持っていることに改めて気づいた。</p> <p>・「なんで？」「どうしてこうなるの？」といった自発的な疑問が自然と生まれる環境を用意することで、探究心がどんどん引き出されることを実感した。</p> <p>・子どもによって着目するポイントが異なり、一人ひとりの視点や感じ方に違いがあることがよくわかった。そこに丁寧に寄り添うことで、気づきや学びが深まる手応えがあった。</p> <p>・チームごとに友達同士、気付いたことを発言し合ったことで、相手の気付きにも耳を傾けることができた。</p> <p>・保育者が「教える」のではなく、「一緒に気づく・一緒に不思議がる」スタンスで関わるのが、探究的な学びの促進につながると感じた。</p>	<p>子どもたちの学びについて、貴重な気づきを共有してくださり、大変楽しい内容になっていると思う。「一人ひとりの視点に寄り添い、共に気づき、不思議がる」という姿勢は、探究的な学びを深める上で不可欠なものである。</p> <p>「子どもによって着目するポイントが異なり、一人ひとりの視点や感じ方に違いがあることがよくわかった。そこに丁寧に寄り添うことで、気づきや学びが深まる手応えがあった」という報告は、まさに私たちが目指す子どもに寄り添った学びの実践と感じた。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	11 月 10 日 (月)	三森

● 実施計画

活動テーマ

アート～ふしぎな絵～
なんの絵に見える？

活動テーマに関する 日頃の興味関心について

普段から絵を描いたり物を作ったりすることが好きで、製作遊びに取り組む姿が多く見られる。絵本やポスターをじっくり見て「これは〇〇みたい」と話したり、友だちと一緒に描いたものを見比べたりしながら、身近な絵や模様に関心を寄せている。

活動スケジュール

環境設定 ・ 準備物

時間	内容	環境設定 ・ 準備物
10:00～10:15	<ul style="list-style-type: none"> ・前月の振り返りとして、混色クイズを行い、色の見え方が変わったということを出せるようにする。 ・活動の導入として、「今日は色々な絵を見てみよう？」と問いかけ、子どもたちの関心を引きつけるようにする。 ・「不思議な絵には、何が隠れているかな？」と、これからの活動に対する好奇心を高められるように伝える。 ・最初に「牛とペンギン」「タコと鳥」などのだまし絵を観察してもらう。「この絵は何に見える？」と子どもたちに問いかける。 ・「本当かな？」と疑問をもちながら、見え方が違うことに気づく場面を体験できるようにする。 ・子どもたちに意見を述べさせ、各自の感じ方や考えを共有できるようにする。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが集中できるように机や椅子の配置を整え、グループ活動しやすいように配置する。 ・視覚的な刺激が強いため、絵をしっかり観察できるように各自の席に配慮する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○違う絵が見える ・牛とペンギン ・鳥とタコ ・白黒の模様の中に犬が見える ・木の絵の中に動物がいる ・階段を下りている人の絵に矢印が見える ・ゾウと犬 ・階段を昇るネコ
10:15～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、少し難易度の高い絵を見せる。 ・「どこを見たら犬が見える？」「階段がどうしても下に見えるの？」と、見え方を意識しながら観察できるようにする。 ・見つけられたものについてみんなで共有し、思ったことや感じたことを言葉にする機会を作る。 ・「エッシャーの『滝』や「階段を昇るネコ」の絵を紹介し、どんな不思議な点があるかを一緒に考えたり、発言できるようにする。 ・「何か変かな？」と問いかけ、絵を見ながら「水は高いところから低いところに流れる」などの自然法則を確認する。 ・子どもたちに指で絵の中の流れや動きを追ってもらい、目の錯覚に対する理解を深めていく。 ・「はしごの絵」を使って実際に錯覚の体験をする。片方の目を手で隠して見ることを伝える。 ・「どこから見たら真っ直ぐに見える？」と質問し、実際に動いてみてはしごがどう見えるのかを体験し、意見を引き出していく。 ・組み立てたはしごを見て、「どうしてこんな風に見えるんだろう？」と話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○つじつまが合わない絵 ・エッシャーの「滝」 ・階段の絵 ○はしごの紙 ○空き缶(ペットボトル) ※折り曲げたはしごの紙を垂直に立てるためのもの ○ゼロハンテープ
10:40～10:45	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで「この位置から見てみたらどう見えるか」を共有し、意見の違いを楽しむ。 ・「もし、この絵を描いたら、どうしたらこんなふしぎな絵が描けるかな？」と問いかけ、今後のアート活動に向けての興味を高める。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>「ふしぎな絵」に関する活動を通じて、子どもたちは自分の目で見える絵の中の不思議さを発見することができた。</p> <p>「牛とペンギン」や「タコと鳥」のだまし絵を観察し、視点を変えることで見え方が違うことを体験した。</p> <p>また、エッシャーの「滝」や階段の絵を使い、目の錯覚や視覚の不思議を体験することができた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この絵、なんだろう？」と驚きの声を上げ、友達と意見を交換した。 ・「これが犬に見える！」や「この階段がどうしても下に見える！」など、観察しながら積極的に発言していた。 また、「どうしてこう見えるんだろう？」と自分で考え、疑問をもつ姿が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに問いかけをし、観察しながらどんどん意見を出せるように声掛けをしていった。 また、視覚に特性のある子どもに配慮し、絵を見やすいようにサポートを行った。 ・グループで話し合いをする際に、子どもたちの意見に対して肯定的に受け止めていき、活発な対話を引き出していった。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが視覚的な錯覚に驚き、自分なりに考え、意見を交わす場面が多く見られた。 ・絵の観察を通じて「どう見えるか」を意識し、自分の感覚や考えを言葉にすることができた。 ・一方で、視覚に特性のある子どもに配慮する必要性を再認識した。 ・今後は、もっと多様な視覚的なアプローチを取り入れることで、全員がより深く感じ取れるような活動にしたい。 	<p>活動を通じて個々の子どもの特性に気づき、「全員が楽しめる形とは何か」を模索しようとする姿勢は大切な視点である。</p> <p>今後は、視覚だけでなく、手で触れる立体的な錯覚(感覚)や、光と影を使った遊びなど、「五感を組み合わせたアプローチ」を取り入れることで、豊かな表現活動へと広がっていくことを期待している。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	2 月 16 日 (月)	三森

● 実施計画

活動テーマ	
おかね ～おかねの使い方を考えよう～ おしごとをしてみよう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
<p>前回の活動を通して、お金について関心が高まっている。 日常生活の中で、家族が仕事に出かけ、そこでお金を得ている様子などから、「働くこと」と「お金を得ること」の関係性に興味を持ち始めている。</p>	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00～10:10	<p>・前回の活動を振り返り、お金の量には限りがあること、どうすればお金がたくさん手に入るかを再確認する。</p> <p>・お金を得る方法について考え、意見をまとめる。</p>
10:10～10:30	<p>・お金は「働くこと」や「何かをすること」で得られることを伝え、疑似体験につなげる。</p> <p>・おしごとカードを提示して、内容を伝える。(例:おもちゃの整理、掃除など)</p> <p>・やりたいおしごとを選び、対価(模擬貨幣)を確認する。</p> <p>・おしごとを実践し、対価として模擬貨幣を受け取る。</p>
10:30～10:40	<p>・おしごとの体験で得た気づきや大変だったこと、お金を受け取った時の気持ちを発表する。</p> <p>・お金は「誰かの役に立つこと」や「価値のあること」の対価として得られることの理解につなげる。</p> <p>・集めた模擬通貨の枚数を数え、記録する。</p> <p>・目標に向かってお金を貯める「貯金」という方法があることを期待感を持たせて伝える。</p>
	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切に <p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬貨幣(ポーカーチップ) ・おしごとカード(写真・イラスト) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが取り組みやすい「おしごと」(例:おもちゃの整理、掃除など)の具体的な内容を提示したおしごとカードを作成する。 ・おしごとの内容によって、対価(模擬貨幣)に差をつけておく(例:難しいおしごとは対価を多くする)。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、「どうすればお金は手に入るか」について考え、子どもたちから「働く」「お手伝いをする」といった意見が出た。</p> <p>・「働くこと」や「何かをすること」で対価としてお金を得られることを伝え、「おしごと体験」につなげた。</p> <p>・展開では、用意されたおしごとカード(おもちゃの整理、掃除など)から、子どもたちが自分でしたいおしごとを選び、事前に提示された対価(模擬貨幣)を確認した。</p> <p>・おしごとを実践する際には、真剣に取り組み、「誰かの役に立っている」という実感を伴った対価として模擬貨幣を受け取っていた。</p> <p>・まとめでは、活動を振り返り、「おしごとは大変だったけど楽しかった」「お父さん、お母さんってこんなに大変だったんだね」といった意見や、「お金をもらえて嬉しい」という素直な気持ちが発表された。実際におしごとをしてお金を得ることで、お金は単に手に入るものではなく、「誰かの役に立つこと」や「価値のあること」の対価として得られることを理解した。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・おしごとを選ぶ際、「これは難しいおしごとだから、お金がたくさんもらえるんだね」と、おしごとの難易度と対価の関連性について気づく姿が見られた。</p> <p>・おしごとを終えた後、「おもちゃがきれいになって気持ちがいいね」「みんなに喜んでもらえて嬉しい」など、お金を得ることだけでなく、「誰かの役に立った」ことへの喜びを言葉にしていた。</p> <p>・お金を受け取った時、「これで〇〇(欲しいもの)が買えたらいいね！」と、お金を使うことへの期待を膨らませている姿が見られた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・子どもたちの発言は否定せずすべて受け止め、「なぜそう思ったのか」と深く問いかけ、働くことの価値や対価の意味を考えられるよう援助した。</p> <p>・おしごとの対価に差をつけることで、働くことには様々な価値があることに気づけるよう意識した。</p> <p>・おしごとをやり遂げたこと、誰かの役に立ったことを具体的に承認し、お金を得る喜びと働くことの意義を同時に感じられるよう配慮した。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・お金を得る体験を通じて、子どもたちは「お金＝労働の対価」という概念を感じる事ができた。特に、「誰かの役に立つこと」「おしごとをやり遂げること」が、お金を得ることと同じくらい、あるいはそれ以上に喜びをもたらすという気づきは、働くことの意義を理解する上で非常に重要だと感じた。</p> <p>・おしごとの内容によって対価に差を設けたことが、「働くことには様々な価値がある」という気づきを生むきっかけとなり、子どもたちの探究心を深める上で有効だった。</p> <p>・おしごと体験を通して、積極的に自分たちで身のまわりのことをしたり、保育者のお手伝いをしたりする姿が増え、自主性に繋がった。</p>	<p>「お金＝対価」という事実を理解させるだけでなく、その背景にある「他者への貢献」や「完遂する達成感」に子どもたちが自ら気づけた点は特筆に値します。報酬が単なる物欲の充足ではなく、自分の力が誰かの役に立ったという「証(あかし)」として機能しており、子どもたちの自己肯定感を大きく高める結果となりました。</p> <p>業務内容に応じて対価に差を設けた設定は、非常に効果的でした。なぜ差があるのかという疑問が、仕事の難易度や責任、必要とされる努力への想像力へと繋がり、結果として社会の仕組みに対する深い探究心を引き出しています。これは論理的思考を育む上でも極めて有効なアプローチでした。</p>